

項 を 書 い て 先 に 休 む 。 「 お 帰 り な さ い 。 お 疲	私 は 、 明 日 の 勤 務 が あ る の で ポ ー ド に 連 絡 事	三 十 分 迄 。 帰 宅 す る の は 二 十 三 時 近 く に な る	遅 番 の 勤 務 は 、 十 三 時 三 十 分 か ら 二 十 一 時	心 が 仄 々 と し 、 疲 れ が 癒 さ れ る	さ い 。 淋 し い け ど 我 慢 し て ね 。」 と 書 い て あ る	夕 食 の 支 度 し て あ り ま す 。 温 め て 食 べ て く だ	「 お 帰 り な さ い 、 お 疲 れ 様 で し た 。 冷 蔵 庫 に	社 か ら 帰 宅 す る と 、 玄 関 に 掲 げ た ポ ー ド に	時 三 十 分 迄 （ 仮 眠 あ り ） 。 当 直 の 日 に 、 私 が 会	妻 の 当 直 勤 務 は 、 八 時 三 十 分 か ら 翌 朝 の 九	和 し よ う と 、 相 談 し 連 絡 ポ ー ド を 購 入 し た 。	違 い が 多 い 。 そ こ で 、 な ん と か す れ 違 い を 緩	し で あ る 。 当 直 は 、 月 六 回 も あ り 私 と の す れ	務 態 様 は 、 早 番 、 日 勤 、 遅 番 、 当 直 の 繰 り 返	は 、 知 的 障 害 者 の 福 祉 施 設 に 勤 め て い た 。 勤	も う 十 年 も 前 の こ と で あ る 。 そ の 頃 か ら 妻						岩 谷 隆 司	心 の 愛 の 言 葉 の 交 流
--	--	--	---	--	---	--	--	---	---	---	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	------------------	---

。

。

今	よ	間	出	し	妻	な	い	ド	ー	今	て	書	ハ	た	も		も	ー	れ
思	う	の	を	ま	と	い	い	に	ル	は	が	き	ー	。	な	も	ー	グ	様
え	な	関	。	っ	時	。	。	書	の	、	、	添	ト	更	い	ら	グ	で	
ば	気	係	携	た	々			い	や	携	夫	え	マ	に	一	い	ル	し	
、	が	の	帯	ボ	話			た	り	電	婦	る	ー	、	言	ます	ト	た	
色	し	何	は	ー	し			手	と	話	の	よ	ク	カ	を	。	買	。	
色	て	か	、	ド	合			書	り	が	絆	う	、	ラ	、	一	っ	冷	
な	な	大	確	で	う			きの	にな	普	を	にな	ニ	フ	ボ	日	て	蔵	
思	ら	切	かに	連絡	こ			の文	つて	及	より	った	コ	ル	ー	常	お	庫	
い	ない	な	便利	し	と			字の	いて	し	強	。	コ	に	ド	の	き	に	
を	。	もの	である	合	が			のよ	る。	、	く	それ	マ	ポ	一	出	まし	君	
込		を	ある	つ	あ			うな	し	妻	する	ら	ー	ー	杯	来	た。	の	
め		失	。	いた	る			な温	しか	と	もの	もの	ク	ド	に	事	。	好	
て		っ	だ	頃	取			かみ	かし	の	にな	の	、	用	書	や	。	き	
手		し	が	の	り			はな	、	連	った	の	マ	く	く	なん	。	な	
書		ま	、	思	外			は	ボ	絡	た	全	ジ	よ	う	んで	。	ぜ	
き		っ	人	い	し			な	ー	も	。	の	ッ	う	にな	。	。	リ	
で		た			て					メ	。	全	ク	にな	。	。	。	ー	
連													で	っ				と	
																			ヨ

